

研究ノート

日本人女性作曲家による電子音楽作品データベースプロジェクトについて  
— 女性作曲家会議アーカイブ・プロジェクトの経過報告 —

**Database of Electroacoustic Works by Japanese Women Composers  
Preliminary Report of the JWCM Archive Project**

森下 周子

Chikako MORISHITA

作曲家

Independent Composer

渡辺 愛

Ai WATANABE

東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科

Department of Musical Creativity and the Environment

Tokyo University of the Arts

概要

JWCM（女性作曲家会議; Japanese Women Composers Meeting）が進める「日本人女性作曲家による電子音楽作品データベースプロジェクト」について報告する。筆者らは女性作曲家の活動の可視化とネットワーキングを目的に、2020年よりデータベース作成に取り組んでいる。本発表では、女性電子音楽作曲家とその作品のアーカイブに関する海外の先行事例と比較した上で、本プロジェクトの立ち位置と方針について論じる。

This presentation discusses the archive project of electronic music works by Japanese women composers promoted by the JWCM (Japanese Women Composers Meeting). The authors have been working on the creation of this database since 2020 with the aim of visualizing the activities of female composers and networking amongst them. The discussion includes the position and policy of this project in comparison with overseas precedents regarding the archiving of female electronic music composers and their works.

1. はじめに

JWCM（女性作曲家会議; Japanese Women Composers Meeting）は作曲家の牛島安希子、森下周子、山根明季子、渡辺愛、渡辺裕紀子を中心となって2019年6月に発足させたりサーチコレクティブである。女性作曲家の活動の可視化とネットワーキングを目的としており、情報の可視化・拡散はインクルーシブネスへの橋渡しになるとの理念から、その活動の一環として「日本人女性作曲家による電子音楽作品データベースプロジェクト」に2020年初頭に着手した。収集したデータは独自のオ

ンラインサイトで公開を目指すほか、国際活用される仕組み作りの一策として EMSAN（Electroacoustic Music Studies Asia Network）の電子音楽作品データベース化プロジェクトへの登録を検討している。EMSANは「アジアのオリジナル言語を伝えつつ西欧語圏の音楽学に資すること」を目的とし2007年に発足した組織で、仏ソルボンヌ大学のサーバに Music Works と Writing に二分したデータを格納している（渡辺・森下2020）。日本では水野みか子ら JSSA 有志メンバーによって2012年頃より EMSAN/JSSA データベース・プロジェクトが立ち上げられデータ整備が進められてきたが（水野2012）、現在は研究者や作曲家が継続的にデータを補完する形で維持されている（水野ほか2020）。

2. アーカイブ作成の課題

2020年2月現在、渡辺愛を中心に、森下や他メンバーがリサーチや実務を補佐する形でアーカイブ制作に取り組んでいるが、アーカイブ・プロジェクトは具体的な計画段階に入ると、様々な課題が浮き彫りになってきた。データベースの持続的運用のための人的・財的資力の確保、信頼性の高いアーカイブ作りに必要なデータ収集の根拠の定め方、そして“女性”という属性で線引きをすることで逆説的に閉塞感を生み出さないかという懸念の三点である。さらに EMSAN データベースにみられる構造的な脆弱性は既報の通りであり（渡辺・森下2020）、登録を念頭に置くにしても、国際活用される仕組み作りに対する方針を明確に定めておく必要がある。以下、海外のアーカイブ事例における上記課題への取り組みを論じながら、本プロジェクトの立ち位置と方針について検討する。

## 2.1. 資力の確保

JWCM データベースは研究プロジェクトとしての立ち上げを予定している。しかし"研究"の一環とする場合、外部から財的支援を得られたとしてもそのほとんどに期間が定められており、研究期間終了後にデータベースをどのように更新・維持していくのかが憂慮される問題となる。特に国内でも政府主導で現実世界とサイバー空間を連結させ課題克服を目指す Society5.0 が進められるなど、デジタル化に向けた取り組みが世界中で活発化しており、精度の高いシステムだけではなく、多言語対応も標準化しつつある。そのような社会的ニーズに応え得るデータベースを運用するための最優先事項のひとつとして、人的および財政的資力の持続的確保が挙げられる。

先行事例には大学を拠点としたプロジェクトが多くみられる。前述の EMSAN もソルボンヌ大学 MINT-OMF (Musicologie, Informatique et Nouvelles Technologies / Observatoire Musical Français, Université Paris-Sorbonne) および深圳大学の研究プロジェクトであると明記されているが (EMSAN 2021)、なかでも近年の特筆すべき事例は、UCLA (University of California, Los Angeles; カリフォルニア大学ロサンゼルス校) のライブラリーが 2018 年に公開した「Contemporary Score Edition」だろう。電子音楽専門のデータというよりは、存命の作曲家を中心とした電子音楽を含む現代音楽一般の印刷譜とデジタル譜を格納するまさに図書館的アーカイブで、2019 年には地元の若手室内オーケストラ Kaleidoscope と提携を結ぶことで格納数を一気に増加させた。若手作曲家向けの国際作品公募で徐々に名が知られるようになった Kaleidoscope は、少額の応募料とともに 2015 年より公募を毎年開催してきたが、2020 年は UCLA ライブラリーからの経済支援によってここ数年課していた 30 ドルの応募料の撤廃に成功した (UCLA Library 2019)。その影響もあってか同年の公募には 86 カ国から約 8,000 作品が寄せられ (Kaleidoscope 2020)、そのうち少なくない数の応募者がライブラリーへの楽譜格納を選択したようだ。2021 年 2 月現在、全 5470 作品がオンライン公開されているが、その大半に「This music score was submitted for the Kaleidoscope 2020 Call for Scores, an open access collaboration with the UCLA Music Library (この楽譜は UCLA Music Library とのオープン・アクセス・コラボレーション Kaleidoscope 2020 Call for Scores に投稿されたものである)」の一文が付記されている (University of California)。この提携は UCLA にとっては最前線で活躍する存命の作曲家の情報を収集・格納でき、Kaleidoscope にとっては人的・財的資力を確保できるため、双方に利がある。さらに UCLA という揺るぎない公的機関主導のアーカイブであるという点において、持続性に対する担保も一定以上の期待ができる。

Institute for Composer Diversity (コンポーザー・ダイバーシティ研究所; 以下、ICD) のデータベースも大学を基幹とする。2016 年夏にニューヨーク州立大学フレドニア校の作曲の学生のために Rob Deeme が立ち上げた小さなデータベースプロジェクトが、翌年 12 月には「Women Composers Database」として検索機能付きのスプレッドシートとして一般公開され、2018 年 6 月の「Composer Diversity Database」への改変を経て、2019 年 1 月には同大学の音楽学部に研究所が設立された。ウェブサイトには資金についての明示もあり、2019 年は 11,000 ドル強、2020 年は 17,000 ドル強がプライベートの寄付と助成金により集められた。しかし実務チームのスタッフは基本的にボランティアであり、支出可能ならば報酬を受け取ることもあるが、ICD のディレクターに就任した Deeme は今後も受け取るつもりはないと述べている。2021 年初頭には前年度の実績と予算をまとめた年次報告書を作成予定とのことで、その公開が待たれる (Institute for Composer Diversity)。

そのほか、トロントを拠点とする非営利音楽協会 Kapralova Society も、オンラインで女性作曲家のリストやデータベースを複数公開している。「チェコの女性作曲家 Vitezslava Kapralova (1915-1940) の音楽を促進し、女性の音楽生活への貢献に対する認識を高めること」を使命とするこの団体の財源についての記載はウェブサイト上では特に見当たらないが、1998 年よりジャーナル誌の発行やシンポジウムの運営を定期的に行うなど私設団体でありながらも 20 年以上の長きに渡り活発な活動を維持し、データベースも更新が続けられていることは特筆に値する (The Kapralova Society 2021)。日本では文化庁の「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」に沿った形で、水野みか子をはじめとする日本電子音楽協会のメンバーらが電子音響音楽アーカイブ・プロジェクトを新たに進めている。同プロジェクトは令和 2 年度文化芸術振興費「メディア芸術アーカイブ推進支援事業」補助金に採択された (水野 2020)。

## 2.2. データ取捨／対象の問題

様々なアーカイブ・プロジェクトが運用されるなかでも、女性電子音楽家のデータベースおよびネットワークハブとして最大規模を誇るのは、オーストリア人女性アーティスト Electric Indigo が運営する「female:pressure」ではないだろうか。DJ としてそのキャリアをスタートさせた Electric Indigo が 1998 年に開設したこのデータベースには、2020 年 9 月時点で女性や性的マイノリティーの電子音楽アーティストら 80 カ国 2660 名が登録されている。アーティスト名だけでなく、「場所 (地域・国・都市)」「ジャンル (大まかなカテゴリー・サブジャンル)」「専門 (電子音楽のプ

ロデューサー、DJ、VJ など)」など複数の事項から当該アーティストを詳細検索できるようになっており、ブッキングおよびプログラミングする側のニーズに則しているという意味で非常に実地的なものだといえよう (electric indigo 2021)。世界中にオフィスを構えるクラブカルチャーの総合情報を掲載するオンラインマガジン Resident Advisor もデータベース機能を兼ね備えており、BLM 運動の高まりも反映してか、2020 年よりダイバーシティに関する編集方針をマガジン上で公開しはじめた (Resident Advisor Ltd. 2021)。電子音楽ソフトやデバイスを提供するベルリンのスタートアップ Abelton も、3 月 7 日の国際女性デーに合わせて「音楽界で活躍する女性たち：アイデアを刺激する 7 つの特集記事」と題した記事をブログで公開するなど、女性アーティストに関する記述を増やしている (Abelton 2020)。

学術的視点からデータを収集するのか、あるいは商業的に活躍する音楽家を中心にするのかは、現在のところ二分傾向にあるようにうかがえる。EMSAN、UCLA Music Library、ICD、Kapralova Society、日本電子音楽協会はいずれも教育や研究のための機関であり、特に ICD は「より多様な音楽をプログラムしようとしている企画運営者や教育者を対象とする」と自らを明確に定義している。一方、「female:pressure」の検索ページでは選択できる“大まかなカテゴリー”が「全て (all)、ブレイクビーツ、ダウンビーツ、ハウス、リスニングミュージック、その他のダンスミュージック、テクノ、トランス、ヴィジュアル」に限られるなど、商業ベースの関係者を対象とする姿勢がうかがえる。クラブカルチャー・マガジン Resident Advisor のマガジンも同様に、学術領域に身を置く音楽関係者の掲載情報は少ない。

データ取捨あるいは対象をどこに絞るかの選択は容易ではない。SNS など誰もが簡単にオンラインで作品を公開することができ、マネタイズの仕組みも発展しつつある現代においては、プロとアマチュアの区分が非常に曖昧であり、かつ、学術領域に接地する電子音楽家は音楽業界全体から見ればごく一部に過ぎない。さらに過去ではなく現在と未来に目を向けた場合、器楽作曲家と電子音楽作曲家という二極的分类がいつまで有効なのかも疑問が残り、2020 年 3 月の第 41 回 JSSA 研究会での研究発表時には「器楽音楽も含む包括的データベースとし、そのなかから電子音楽を索引できる仕組みが良いのではないか」という提案が参加者から聞かれたように、“電子音楽”作曲家に対象を限定する可否も意見が分かれる。

### 2.3. “女性”のデータベース

対象の問題という意味では、“女性”を調査対象とすることが属性の設定として適切かどうかについても声があがっている。近年 LGBTQ 運動が盛んになり、欧米では“*She*”や“*He*”ではなく“*They*”の時代だという発言が多く聞かれるなど、ジェンダー区別自体がナンセンスだという風潮が高まりつつある。たとえば「female:pressure」はサイト名に“female”を掲げながらも、その対象を「女性、AFAB [assigned female at birth; 出生時の女性]、トランスジェンダー、トランスフェミニン、トランスマスキュリン、インターセックス [中間的な性] (+ジェンダー任意)、ジェンダーキア、ジェンダーノンコンフォーム、a-ジェンダー [ジェンダーレス] または / および非バイナリーアーティスト」と定めている (electric indigo 2021)。「Women Composers Database」からスタートした IDC は、発展の過程で対象を「underrepresented groups (抑圧下に置かれてきたグループ)」に定め直し、データベース名も「Diversity Composers Database」に改めた。ウェブサイトには「ダイバーシティ」という語は「女性や非バイナリー、人種、民族、文化的背景の異なる作曲家やアーティスト、LGBTQIA2s+ コミュニティの中で活動している人たち」を示すと書かれている (Institute for Composer Diversity)。さらに、Resident Advisor は「Diversity」と題したステイトメントページで、2021 年は「少なくとも 40 % のレビューは BIPOC アーティスト (Initialism of black, indigenous, and people of color; 黒人、先住民、有色人種) の音楽に関するものにする」「少なくとも特集の 30% は女性に焦点をあてたものにする」「少なくとも映画や特集の 10% はトランスや非バイナリーのアーティストに焦点をあてるものにする」など、インクルーシブ社会の実現に向け具体的な数字を公開している (Resident Advisor Ltd. 2021)。

データベースというものの性質を考えたとき、構築から公開にいたるまで短くない時間を要し、さらには運用期間も長期にわたる。過去のデータを重点的に整理するのか、それとも未来に向けたデータ収集・保存システムを構築するのかといった時間に対する意識を明確に定めるだけでなく、私たち自身が実現したい社会のヴィジョンを描くことが求められる。

### 3. おわりに

JWCM 発足から約 2 年半が経ち、SGFA 東京などの学会参加、ケンブリッジ大学出版のジャーナル誌への投稿、Yahoo! Japan SGDs クリエイターズプロジェクトへの参加、ジェンダーとセクシャリティに関する教育提言を目指す研究団体との協働などを通して、“日本人女性作曲家”であることについてメンバーは議論を重ねてきた。このような団体は現在世界中で多くみられる。たとえば 2017 年に設立された IFCA (Iranian Female

Composers Association; イラン女性作曲家協会) は欧米諸国の芸術団体や教育機関と幅広く提携し、国内外でその存在感を高めることで、「イラン人」「女性」のアイデンティティ拡大という重要かつ喫緊の課題に取り組んでいる。ドイツの FRAU MUSICA NOVA、オーストリアの Fragility of Sounds など、非恒常的なプロダクションチームも含めれば枚挙に遑がない。ダイバーシティ政策が様々な形で促されながらも、実際は多くの格差が今なお多く報告される現在の日本の環境においては、声をあげ続けることが重要である。今回論じた事例のなかで、個人が作り始めた女性のリストが、チームが運営する様々なマイノリティのデータベースに結合し、最終的に大学の研究機関にまで発展したものがあつた。JWCM では本プロジェクトを進める中でジェンダーというアイデンティティについて議論を続けてきたが、今後も国内外の人々や団体と対話をしながらアーカイブの構築を目指したい。

#### 4. 参考文献

- Abelton. (2020) 「音楽界で活躍する女性たち：アイデアを刺激する 7 つの特集記事」 <https://www.ableton.com/ja/blog/women-music-seven-inspiring-features/> Accessed February 9, 2021.
- female:pressure. 2021. “about female: pressure.” <http://www.femalepressure.net/fempres.html> Accessed February 9, 2021.
- Institute for Composer Diversity. “Frequently Asked Questions.” <https://www.composerdiversity.com/faqs> Accessed February 9, 2021.
- Kaleidoscope. (2020) “Kaleidoscope 2020 call for scores - final results.” Unpublished. 応募者宛ての個人メール.
- Kapralova Society. (2021) “About us.” <http://www.kapralova.org/SOCIETY.htm> Accessed February 9, 2021.
- Paris-Sorbonne University. (2021) “EMSAN (Electroacoustic Music Studies Asia Network) Project.” <http://www.ums3323.paris-sorbonne.fr/EMSAN/> Accessed February 9, 2021.
- Resident Advisor Ltd. (2021) “Diversity.” <https://jp.ra.co/about/diversity> Accessed February 9, 2021.
- University of California. “Contemporary Music Score Collection.” <https://escholarship.org/uc/uclamusiccores> Accessed February 9, 2021.

org/uc/uclamusiccores Accessed February 9, 2021.

Vest, Matthew. (2020) “UCLA Library and Kaleidoscope Announce Open Access Collaboration to Empower Composers.” <https://www.library.ucla.edu/news/ucla-library-kaleidoscope-announce-open-access-collaboration-empower-composers> Accessed February 9, 2021.

水野みか子, 三輪眞弘, 由雄正恒, 渡邊愛, 鈴木悦久, 宮木朝子, 福島諭, 古川聖. 2020. 「日本の電子音響音楽アーカイブについて—日本電子音楽協会アーカイブ・プロジェクトの経過報告—」『先端芸術音楽創作学会会報』12(3),12-16.

渡邊愛, 森下周子. 2020. 「日本人女性電子音楽作曲家データベースプロジェクトに関する研究計画」『先端芸術音楽創作学会会報』12(1),36-38.

#### 5. 著者プロフィール

##### 森下周子 (Chikako MORISHITA)

東京芸術大学修士、英国ハダースフィールド大学博士修了。博士(アーティスティック・リサーチ)。HCMF (英国)、BIFEM (オーストラリア)、Mixture (スペイン)、Techtonics (イスラエル)、Philharmonie Luxembourg Rainy Days (ルクセンブルグ) 等国際音楽祭からの委嘱・出品多数。演奏家の外側と内側が一致した／乖離した状態を作ることを音楽作品で試みている。2020年 Kulturaustauschstipendium Musik des Landes Berlin (ドイツ) 授与。

##### 渡辺 愛 (Ai WATANABE)

作曲家。東京音楽大学を経て渡仏、パリ国立地方音楽院修了。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。リュック・フェラーリ研究で博士号を取得(学術)。第一回東京音楽大学学長賞(日本)・TEM 主催 JAPAN2011 受賞(イタリア)・ピエール・シェフェール賞セミファイナリスト(フランス)、第三回プレスク・リヤン賞ファイナリスト(フランス)。国営ラジオでの放送(France Musique)、FAF(富士電子音響芸術祭)・FUTURA(フランス)・NIT(スペイン)、ICMC(韓国)等の音楽祭での上演など国内外で評価を得る。東京藝術大学・尚美学園大学・昭和音楽大学各非常勤講師。日本電子音楽協会理事。先端芸術音楽創作学会会員。JWCM 女性作曲家会議メンバー。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示 - 非営利  
- 改変禁止 4.0 国際 ライセンスで提供されています。  
ライセンスの写しをご覧になるには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/> をご覧頂くか、Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA 94042, USA までお手紙をお送りください。